

決定版 はじめて見るなら絶対この能!!

はじめてみる能・狂言ガイド

能文社

2013年4月

NEW! 今さら聞けない...(姉妹版) 能・狂言Q&A集

<http://nobunsha.jp/img/nokyogenQA01.pdf>

【言の葉庵】トップページへ

<http://nobunsha.jp/>

能・狂言をはじめてみる時は...

どこで

誰の

何を

どのように
にして

みればいいのでしょうか...?

それではご案内しましょう!

どこで

演能情報入手・チケット購入

A. 催しを知る。情報入手する。

演能情報は、新聞・雑誌・TV・プレイガイドには出ていません。

そこで

能楽堂

首都圏の能楽堂、受付・ロビーに各種パンフレットが豊富に取り揃えられています。

- ・国立能楽堂(千駄ヶ谷)
- ・観世能楽堂(渋谷)
- ・宝生能楽堂(水道橋)
- ・横浜能楽堂(桜木町)
- ・矢来能楽堂(神楽坂)
- ・鍬仙会研修舞台(青山)

ホームページ

下のホームページ・メルマガに全国月間の「演能情報」がアップされています。

- ・能狂言のホームページ
<http://p.tl/-kWq>
- ・能楽(能・狂言)公演情報
<http://p.tl/HPmu>

専門誌

能楽専門の新聞・フリーペーパーに詳しい案内と情報が掲載されています。

- ・能楽タイムス
通信販売の能楽専門新聞。月刊。定期購読制。
- ・東京文花座
月刊フリーペーパー。観世能楽堂・国立能楽堂にあり。

B. チケット購入場所

能楽堂窓口 (電話受付OK)
パンフレット申込先(主催者・能楽師)へ直接電話
ホームページの申込フォーム

オススメは
コレ!!

パンフレットは能楽堂で入手する。

- 一位 国立能楽堂
- 二位 観世能楽堂
- 三位 宝生能楽堂

【理由】効率よく長期・短期の能楽催しパンフレットを入手できる。能楽堂閉館時も事務所受付でもらえる。国立は全流儀のパンフを網羅。観世・宝生・喜多には珍しい会の案内も。

チケットは、パンフの申込先に電話する。

【理由】能楽堂は、自主公演以外のものは割り当て配布のため、枚数・席種等に限りがあり人気番組はすぐ売り切れる。予約電話がつかない。主催者(パンフ記載)に電話するのが、いちばん早く、かつ確実に希望の席を手に入れられる方法。チケットは郵便振替用紙同封で自宅に送られてくる。

どこで

能舞台・見所

能楽堂



- ・アクセスが良い。
- ・舞台の質・量ともに充実。
- ・室内なので、緊張感のある密度の高い芸を鑑賞できる。

・天候に左右されない。

×

- ・堅苦しい

薪能



- ・雰囲気が良い。
- ・気楽にみられる。
- ・無料の場合あり。

×

- ・天候に左右される。
- ・緊張感にかける。気が散る。
- ・曲が限られる。
- ・アクセスが悪い。

寺社能舞台



- ・歴史的建造物であることが多い。由緒正しい舞台。
- ・雰囲気が良い。

×

- ・基本的にデメリットは薪能と同じ。
- ・地方のため、演能と役者の質(とくに三役)が落ちる。

オススメはコレ!!

都心の能楽堂でみる。
席は正面席の中より後、やや右手。

【理由】アクセス、立地、舞台の質すべての点から、都心の能楽堂でみるのがベスト。地方は有名なシテ方が出演しても、三役のレベルが落ちることがある。薪能は、能をみるというよりは、雰囲気を楽しむ観光に終わってしまうことも。

ズバリ! おすすめ能楽堂は?

一位 国立能楽堂(千駄ヶ谷) 施設が広い・キレイ・立派。各流儀のさまざまな能が常に見られる。料金が安い。

二位 観世能楽堂(渋谷松涛) 最大流儀"観世流"の総本山。密度の高い、ハイレベルな舞台が体験できる。都心・商圈に近く便利。

三位 宝生能楽堂(水道橋) 都心に近い、マンションの中にある能楽堂。モダンな外見ながら"加賀宝生"の落ち着いたたたずまい。

どこがみやすい、いい席? 見所(観客席)の種類。

正面席 真正面からなので、いちばんバランスよく舞台を鑑賞できる。料金もいちばん高い。

脇正面席 舞台を真横からみる通好みの席。シテの型がよくわかり、地謡がよく聞こえる。料金は中。

中正面 自由席、学生席が割り当てられる。真中の柱が気になるかも。舞台は立体的に感じる。料金低い。

誰の

流儀・役者

能楽五流一覧表

流儀		特徴
観世流	宗家	<p>観阿弥・世阿弥の流れをくむ、五流最大の流儀。現宗家は二十六世、観世清和。 芸風は五流の中でもっとも現代的・合理的。繊細で優美と評されている。 宗家の分家として観世鍔之丞家、別家の観世喜之家、桃山時代に観世流のツレ家となり流儀に含まれた丹波猿楽系の梅若家がある。 分家の能舞台は青山の鍔仙会研修舞台、別家は神楽坂、矢来能楽堂、梅若は中野、梅若研能学院である。</p>
	分家	
	別家	
	梅若家	
宝生流		流祖は観阿弥長兄の宝生太夫。加賀前田藩に仕え、金沢に大きな勢力をもつ。芸風は重厚で謡重視。
喜多流		江戸期に樹立したもっとも新しい流儀。流祖、七太夫長能。武士道的気概の豪放で気迫ある芸風。
金春流		遠祖は秦河勝。最も古い家柄をもつ。古風をのこす雄渾でのびのびした型、闊達な謡が特徴。
金剛流		世阿弥と同時代の金剛権守より続く芸統。「舞金剛」と称される、華麗で優美な型と芸風。

オススメは

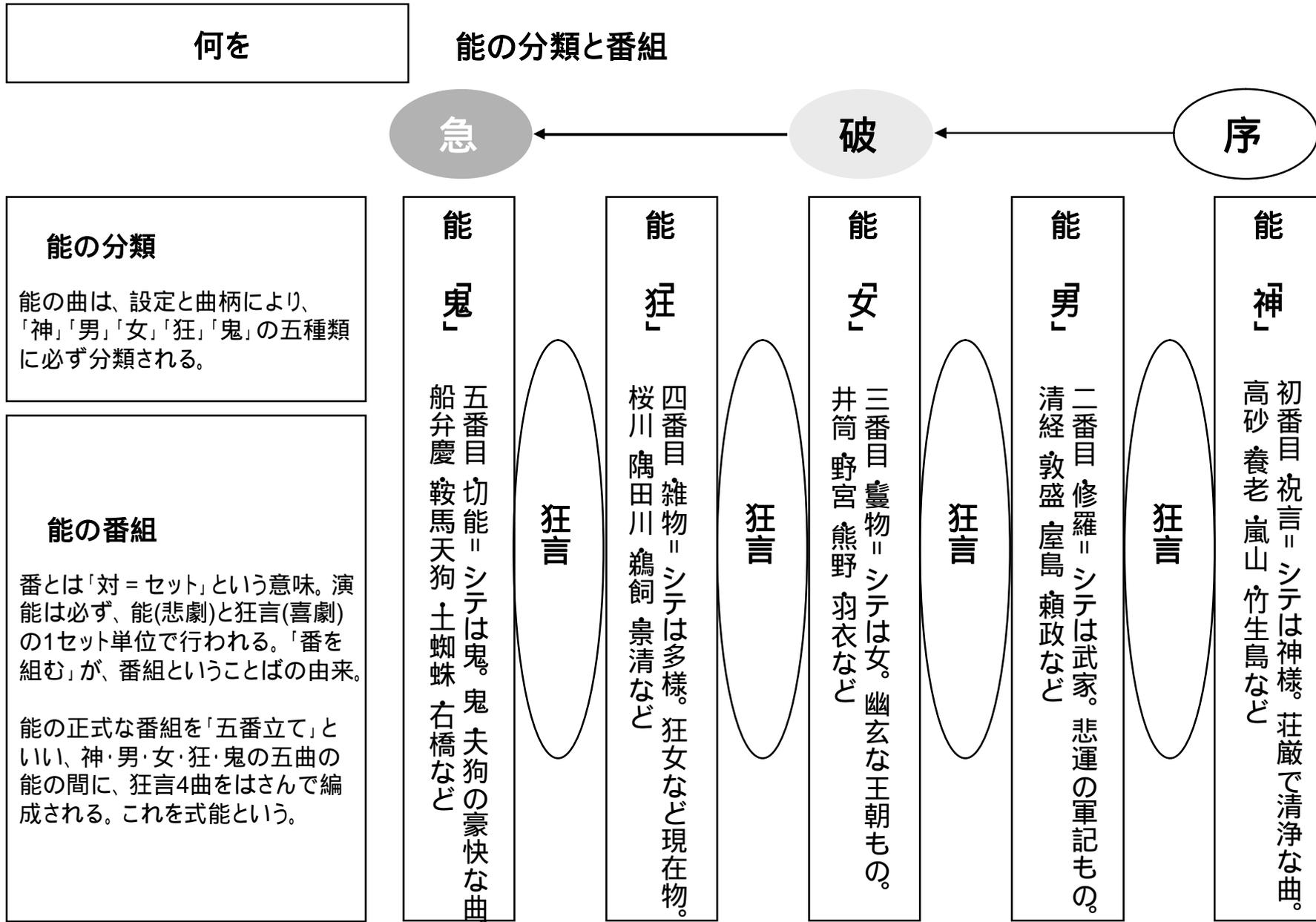
コレ!!

観世流の能。

【理由】最大流儀のため層はもっとも厚い。シャープでメリハリのある芸風。はじめてみる舞台としては、やはりみて「よくわかる」芸質で選びたい。ただし、シテはよく選ぶこと。

ズバリ! おすすめ能役者は?

- 一位 梅若玄祥(観世) 梅若実・六郎家のエリートにして観世流の花形役者。
- 二位 友枝昭世(喜多) 観世流以外の役者では群を抜く実力と人気。女もの、三番目の芸がひときわ美しい。
- 三位 関根祥六(観世) 現行観世宗家筋の最長老。芸へのこだわりは流儀中もっとも強い。
- 四位 近藤乾之助(宝生) 名人近藤乾三の子で宝生流の重鎮。妥協しない真摯な芸風。
- 五位 観世清和(観世) 現観世宗家。まだ中堅だが、能を心底愛する。ルックスがよい。
- 六位 浅見真洲(観世) 故観世寿夫の流れを伝える。一本筋の通った芸風。



ただし現在は一日に能一番か二番の番組がほとんど。五番演じられることはほとんどありません。

何を

演目

神



高砂・養老・老松・西王母・嵐山・賀茂・竹生島・玉井…など。

天下泰平、国土安全を寿ぐ祝言の曲。前シテは神の化身の老翁、後シテは神体。

男



経正・清経・敦盛・忠度・田村・八島・頼政・実盛など。戦の罪により、修羅道に堕ちた武人の苦患を描く。名のある風流な源平武者が主役。

女



井筒・野宮・江口・定家・松風・熊野・羽衣・西行桜・杜若など。

王朝の美女が主役。幽玄で深遠な能。鬘物とよぶ。優美な序ノ舞が一曲の中心。美男、草木の精が主役の場合もあり。

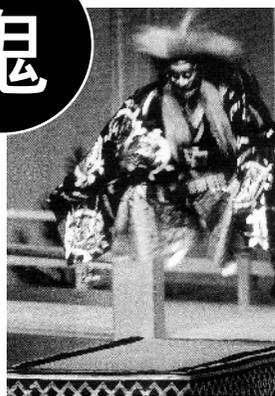
狂



隅田川・三井寺・蝉丸・弱法師・阿漕・砧・葵上・道城寺・俊寛・天鼓など。

物狂以外にも、執心、斬組、芸尽くし、人情、女神ものなど。多様な曲種を含み、雑物ともよばれる。

鬼



石橋・野守・土蜘蛛・大江山・鞍馬天狗・碓・船弁慶など。

鬼、天狗や異界の"モノ"を主役とする。にぎにぎしく豪快な曲種。一日の終わりに演ずるので、切能ともよぶ。

オススメは
コレ!!

四番めの能(狂)。

【理由】華やかで、見せ場が多く、ストーリーも起伏に富む。はじめてみる能は、絶対コレ! 筋書きと山場のほとんどない「神」「女」は避ける(高尚、儀式的な能)。

ズバリ! おすすめの曲は?

- 一位 船弁慶 前シテの幽玄な静御前の舞と、後シテの豪快な亡霊、知盛の立ち回り、二種一度に満喫。
- 二位 安宅 人気の弁慶もの。スペクタクル。
- 三位 葵上 源氏物語の幽玄と劇能の面白さ。
- 四位 俊寛 絶海の孤島にひとり取り残される俊寛の絶望と悲哀。
- 五位 隅田川 最愛の子を失った悲劇の母の名作能。子供の亡霊がなんととも可憐。
- 六位 国栖 壬申の乱を描く。舞台に吉野、国栖の神の奇跡を見せる。

どのように

楽しみ方・マナー

▶ 楽しみ方は、個人の自由。

【囃子を聞く】 あの世の"魔物"を呼び寄せる妖しい能管の調べ。世界一音色の美しい打楽器といわれる小鼓を聴く。

【型をみる】 "歩行の芸術"。水面をすべるような能のすり足。動く彫刻ともよばれる能独特の動きをみる。わずかな扇の動きに、舞台に月光が差し、桜が散る。

【謡を聞く】 強吟・弱吟。西洋音楽にない、能独特の不思議な音階。源氏・伊勢物語・古今集の名歌を聞く。オペラの名テノールのような鍛錬したシテの美声を鑑賞。

【面・装束をみる】 3mmの動きで、悲しみ・喜び・驚き、多彩な表情を生み出す能面"小面"の不思議。重文・国宝級、室町・桃山時代の豪華な面・装束を舞台でじかに鑑賞できる。

▶ マナーは通常の音楽コンサートと同じ。

服装は、原則普段着でOK。女性の着物はよくマッチするが、洋装の方が多い。
(× 「……三回忌」などと銘うつ"追善能"では赤い色の服を避ける)

開催中、見所への出入りは原則自由だが、演能中(特に前場)は、極力静かに、なるべく中入り・間狂言など場面の転換時に入る。能楽堂スタッフに誘導してもらう。

× 普通のコンサートと同じく開演中は静かに。おしゃべり、携帯は厳禁。

× いくら興にのっても、役者とあわせて謡を口ずさまないよう。

一曲の終わりの拍手はOK。ただし、タイミングが難しいので、まわりの場を読んで、通は拍手しない。

× 見所には出演者のお弟子さんがいっぱい。帰途の声高な批判は慎む。

長い謡の段や、舞の間は眠くなるし、こらえきれず眠っても良い。それが自然。

オススメは
コレ!!

あら筋を事前にインプット。

【理由】謡が聞き取れても、用語が難しく意味がわかりにくい。間狂言をきくと、筋がよくわかる。

シテはいちばん最後に出てくる。

【理由】筋がわかっても、舞台の実際の配役を把握しないと、意味が通らない。能では、軽い役から順に登場する。(ただし、間狂言だけはシテより後に出る)

役者の足をみる。

【理由】能役者の実力は、謡とハコビ(すり足で歩くこと)にあらわれる。

休憩に思い切って、一曲抜く。

【理由】通常の能組では、休憩が10分程度しかない。お茶を飲んだり、とくにトイレのために(女性トイレは休憩時間、長蛇の列になる)仕舞・狂言などをカットし、リフレッシュしておく、最後の能までしっかり鑑賞できる。

参考資料

入門者必携の各分野一冊

マンガ

『まんがで楽しむ能・狂言』 檜書店
¥ 1,050 (税込)



マンガですらすら読めて、能の基本がわかる入門者必携おすすめ本。
【内容】
1. 海外転勤が決まった商社マン(主人公)の能狂言初体験ストーリー。
2. 「清経」「羽衣」「土蜘蛛」など、マンガで面白く解説。
3. イラストで理解する、能狂言の基礎知識。

ガイドブック

『能楽ハンドブック』三省堂
¥ 1,575 (税込)



「はじめて能をみる人」のための実用的、超入門編ハンドブック。現行100曲の所要時間掲載。
【内容】
1. 第一部 能への招待
2. 第二部 曲目編
3. 第三部 事項・用語編
4. 第四部 資料編

世阿弥の本

『現代語訳 風姿花伝』 PHP
¥ 998 (税込)



能の真髄を解き明かす、世阿弥の代表作。すらすら読めるやさしい現代語訳。名言名句の宝庫。
【内容】
1. 年来稽古 子供時代～壮年の稽古の方法と教育論。
2. 物学條々 能の物真似芸の秘伝。
3. 問答條々 観阿弥と世阿弥による能の仮想Q&A集。
4. 別紙口伝 なぜ人は感動するのか? 「花と幽玄」の奥伝。

情報紙

『能楽タイムズ』 能楽書林
¥ 5,000 (税込 / 年間定期購読料)



業界唯一の能狂言専門月刊紙。詳細な月間全国「演能情報」を掲載。
【内容】
1. 能狂言界の最新ニュース。
2. 能役者インタビュー・対談。
3. 全国演能情報
4. 「今月の舞台より」能評。

能文社【言の葉庵】

ホームページ【言の葉庵】



いにしへの偉人、達人の知恵と言の葉のエッセンスを、古典の名言、名言から汲み取り、分かち合うためのページです。日本精神文化を代表する能、茶道、武士道、俳諧、禅などの古典名著から毎回、名言・名句をピックアップし、解説とともにおすすめ作品の本文を現代語訳にて抜粋、ご紹介していきます。

詳しくは左記ホームページ【言の葉庵】をご覧ください。
<http://nobunsha.jp/>

能文社の出版物



貞観政要(上)(下)
呉兢 撰 / 水野聡 訳
本体価格(上)(下)：各3,300円
判型：四六版 (上)364ページ、(下)362ページ
発売日：2012年10月31日
中国帝王学の世界的名著をはじめて全文和訳に。



葉隠 現代語全文完訳
著者：山本常朝著 水野聡訳
本体価格：4,480円 能文社
武士道とは死ぬことと見つけたり。鍋島武士道の聖典。



南方録 現代語全文完訳
著者：南坊宗啓著 水野聡訳
本体価格：3,300円 能文社
千利休高弟の禅僧による利休茶の湯の奥伝書。

ものの見方が変わる。千利休の名言
著者：水野聡
本体価格：2,200円 能文社
利休の珠玉の名言集に「千利休由緒書」を併載。



全国書店にてご注文いただくか、言の葉庵HPにてお求めいただけます。

能狂言 入門者のためのカルチャー講座！

2013年4月期の言の葉庵各講座

“超” 初心者でもわかる能狂言
～能の物語・役者・舞台の楽しみ方をやさしく学びます。
東京二子玉川・東急セミナーBE
<http://www.tokyu-be.jp/seminar/2013040005AH66601.html>
曜日・時間 第1火曜日 13:00～14:30
回数：全6回
受講料：16,800円

はじめて見る能狂言
～初心者のための超カンタン能楽入門
東京大田区・蒲田産経学園
<http://p.tl/sueu>
2013年4月～9月 全6回
開講日：第2週水曜日 10:30-12:00
受講料：(3ヵ月) 8,505円

東京新橋・寺子屋 素読ノ会
言の葉庵オフィシャル講座
講座名：『風姿花伝』
<http://nobunsha.jp/img/terakoya%20annai.pdf>
第四月 17:30～19:00
受講料：各講座一回 1,500円
場所：生涯教育センター ばるーん(新橋)